

明日の古河市を創る特別委員会報告

明日の古河市を創るため、古河市議会から針谷市長へ要望書を提出！

令和4年第1回古河市議会定例会最終日（3月18日）の本会議において、青木委員長から明日の古河市を創る特別委員会委員長報告が行われ、同日、鈴木議長から針谷市長へ要望書を手渡しました。



○ 設置および目的

本委員会は、令和2年第1回古河市議会定例会（3月19日）において、「華のある都市（まち）古河」を実現し、「まちに活力、人に安心、魅力あふれる都市づくり」を進めるための重点プロジェクトについて、議会においても調査・研究し、早期実現を執行部へ提言することを目的に、委員8名で設置されました。

○ 調査項目

- | | |
|-----------------|-----------------|
| ①各交流拠点の整備について | ②防災・減災体制の確立について |
| ③（仮）南古河駅の設置について | ④筑西幹線道路の整備について |
| ⑤公共施設の再配置について | ⑥その他 |

○ 活動経過

令和2年3月19日の発足以来、全13回の委員会、さらに現地視察1回、講演会1回を実施するなど、各調査項目について調査・検討を重ね、各委員の意見を取りまとめました。

まちに活力、人に安心、魅力あふれる都市づくりを進めるために！

6つの調査項目について、次のとおり報告しました。



議会本会議での委員長報告



感染防止対策を講じた現地視察

1 各交流拠点の整備について

古河駅東部土地区画整理事業については、5.8ヘクタールの大街区処分が事業の成否を決めるだけでなく、古河市全体のまちづくりを進めるうえでも、喫緊に解決し、具現化しなければならない最重要課題として、次のとおり提言する。



大型施設等の進出が期待される、古河駅東部土地区画整理事業大街区

- ①国県公共施設（茨城労働局・茨城県古河警察署）の移転計画が決定しているが、新市建設計画では、文化交流拠点としての位置付けがなされている。このため、公共施設群の集積をはじめ、商業施設の誘致や古河体育館の跡地・親水公園・調整池等を活用したアーバンスポーツの導入など、エンターテインメント性を兼ね備えた複合的な土地活用を図り、人が集い賑わいを生む空間づくりを進めるためのまちづくりビジョンの提示。
- ②公会堂の再建については、市の魅力度向上につながるよう古河駅東部土地区画整理事業のみならず、周辺地域の一体的な整備・推進。

新たな産業拠点の形成については、カーボンニュートラルに向けた産業界の動向等を的確に捉え、次のとおり提言する。

- ①未来産業基盤強化プロジェクトを活用した早期の具現化。
- ②水素ステーション整備に向けた、積極的な調査・検討。

2 防災・減災体制の確立について

市の面積のほぼ半分が浸水想定区域となり、人口の約半数がこの区域に居住する地域特性があることから、次のとおり提言する。

- ①マイ・タイムラインに基づく早期避難の呼び掛けの徹底や、避難所の機能向上。
- ②十間通りおよび中央運動公園通りの浸水解消や、浸水危険箇所への早期対応。
- ③雨水幹線および貯留施設等整備に係る中期・長期計画を策定し、優先順位に基づく整備。
- ④広域消防施設の再配置・見直しの中で、災害発生時の対策本部の一端を担う消防本部の移転について、広域関係市町に要請。
- ⑤ネーミングライツ等の財源を活用した貯留施設整備の調査・検討。



令和元年10月台風第19号の際の利根川・渡良瀬川合流地点
提供：利根川上流河川事務所

3 (仮) 南古河駅の設置について



新駅設置に向けては、人口減少による鉄道利用客の減少など厳しい環境下にあるものの、既存集落の生活道路の整備をはじめ、できることから手掛けていくという方針のもと、次のとおり提言する。

- ①新駅設置の推進ならびに土地区画整理事業の合意形成。
- ②民間活力による周辺整備と一体的に事業を推進することで、新駅設置だけでなく大堤交差点の渋滞解消など、市の飛躍につながる新都市拠点の形成。

4 筑西幹線道路の整備について

全市的な都市計画道路網の見直しに合わせ、早急に東西交通の充実を図る必要があるため、次のとおり提言する。

- ①筑西幹線道路の新4号国道以西の具体的なルートの決定。
- ②朝夕の十間通りの渋滞緩和のため、中央運動公園通りまでの区間の早期事業化。



整備が進む市道柳橋下大野線

5 公共施設の再配置について



中央公民館と周辺公民館等の機能を集約した古河市総和地域交流センターの整備が進められているが、さらなる公共施設の再配置を進めるため、次のとおり提言する。

- ①他施設についても必要性・有効性に応じて長寿命化（継続）や複合化・多機能性（再編）を図ることを検討。建て替えにあたっては、ライフサイクルコスト低減を考慮し、機能向上を図った設計。
- ②学校適正規模・適正配置計画については、義務教育学校も視野に入れ、学校、家庭、地域との連携を図りながら、速やかに議論を開始。
- ③超高齢社会において、健康寿命の延伸に寄与した健康体操やトレーニングルームなどの機能拡充。

参照：古河市総和地域交流センター基本計画 -概要版-

6 その他（官民連携によるまちづくりの推進）

都心までのアクセスが1時間という古河市の立地条件や、開発ポテンシャルを最大限に引き出し、民間の知恵やノウハウを活用した魅力あるまちづくりにより、賑わいの創出につながるような新しいプロジェクトの提案と具現化。

まとめ

以上、6つの調査項目について個別具体的な提案を行ったが、各調査項目については、市政の根幹に係わる重要項目との認識から相互に関連づけながら、短期あるいは中長期的な戦略をもって取り組まなければならない。

2025年には、新生古河市が誕生して20周年の節目の年を迎える。新たなステージに向けては、古河駅東部土地区画整理事業の公共施設とエンターテインメント性等を融合した、まちの賑わいを生む「街びらきビジョン」を早期に示し、残り58億円の合併特例債を最大限活用した、古河市全体への起爆剤となるプロジェクトの早期立ち上げを強く求める。

また、市長には、この提言を受けて、中長期的な戦略ビジョンに基づき、持続可能な地域社会の実現を目指し、ポストコロナを見据え、議会の意向も尊重しながら、その能力を十二分に発揮していただきたい。

最後に、古河市が「華のある都市（まち）古河」の実現に向け、輝かしい明日の古河市を創っていくことを願い、報告とする。



議論を重ねた特別委員会の様子

令和4年3月18日

明日の古河市を創る特別委員会
委員長 青木 和夫

明日の古河市を創る特別委員会

委員長	青木 和夫
副委員長	渡邊 澄夫
委員	鈴木 務
委員	高橋 秀彰
委員	佐藤 稔
委員	生沼 繁之
委員	落合 康之
委員	黒川 輝男